

1. 評価報告概要表

評価確定日 平成20年8月12日

【評価実施概要】

事業所番号	2278300261
法人名	有限会社川合
事業所名	グループホーム 和
所在地 (電話番号)	浜松市浜北区東美蘭66 (電話) 053-584-3080

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年4月18日

【情報提供票より】(20年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,360 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(240,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり 1,500円			

(4) 利用者の概要(3月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	1 名	要介護2	5 名			
要介護3	7 名	要介護4	2 名			
要介護5	3 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.7 歳	最低	68 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 聖パウロ会 西遠クリニック
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

代表者の思いは「空気が変わらない場所で暮らすことができるといい」と、開設当初から地域の中での暮らしの大切さを理念に掲げている。本人のできること、できないことを把握し、できることは極力本人のペースで行う生活が保たれている。摂取カロリーや食事バランス等、高齢者に対する食事をよく理解すると共に、職員と一緒に楽しい雰囲気の中で食事をとっている。ケアプランは重点課題を絞り込むことによって、職員が共通理解を持って支援できるようにしている。モニタリング様式についても評価の過程がよく解るよう工夫している。ターミナルケアについては指針を示し、家族の希望があれば、協力医・ホーム・家族と連携し情報を共有しながら看取り介護を実施する等、利用者・家族の安心に繋げている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について職員で話し合い、改善できるものは全て改善している。改善に時間を要する項目については、実施中あるいは今後実施の方向で進めている。指摘事項を真摯に受け止め改善に向け前向きな姿勢が伺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員がそれぞれ自己評価票に記入し、管理者がまとめている。今後取り組んでいきたい項目については、具体的な課題として捉え、職員間で共有化している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は現在実施していないが、会議の必要性、主旨は理解している。自治会等地域の役員体制が確立した5月の立ち上げを予定している。最初は地域の人に対し、ホームのPRを行い、徐々に意見・要望等、双方向関係の会議となるよう考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者一人ひとりの保険者連絡先等も明示し、利用時や面会時の折に触れ説明している。面会時は家族の意見や要望を気軽に言える雰囲気をつくり、不満、苦情につながらないよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩が毎日の日課となっていて、近隣の方との会話を楽しんだり、地域が行うイベントへ参加したり、またホームが行う夏祭りに地域の方を招待する等、地域とのつながりを大切にしている。今後は運営推進会議の中で意見交換を行い、地域との交流が益々活発になることを期待する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の中で自由にのんびり、共に支えあい、その人らしく生活できる場を提供し、支援することを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議では代表者も出席し、理念の唱和を行う等、理念を共有し、実践にむけて取り組む姿勢が伺える。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者が自治会に所属しており、清掃奉仕や地域行事に参加し、地域交流に努めている。ホームが行う夏祭りには、近隣にチラシを配布して招待する等、交流の場を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価に取り組む等、評価の意義を理解し改善に向けた積極性が伺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在運営推進会議は実施していないが、運営推進会議の必要性は充分認識しており、今年度5月開催を予定している。	○	意見や要望をサービス向上に反映できるように双方向的な情報交換の場となる会議を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	有限会社としてホームを立ち上げた経緯もあり、行政と行き来する機会が多い。行政も積極的にサービス向上に向けた情報の提供に努め、運営推進会議の実施についてもアドバイスを受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真や日々の暮らしぶり、担当職員のコメント等を請求書を送付する際に同封し、報告している。面会時にはこちらから声掛けし、家族の意見や要望を聴ける雰囲気づくりに努めている。また家族との面会の場を多くするため、紙パンツ、パット、洗剤等は家族による持参を行なっている。	○	忙しさの中でも、面会者が気軽に話しかけられる雰囲気作りを今後も続けてほしい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の保険者(介護保険担当者)の連絡先を明示し、利用開始時や面会時等に説明している。家族との面会時に意見や要望を聴くことで、不満や苦情につながらないよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職による職員の交替が生じた場合は、極力早い時期から利用者・家族に報告し、ダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社会福祉協議会が企画する各種研修会の中から、個々の職員の希望や育成計画に見合った研修に参加している。また研修報告を行い、職員間の理解に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の主催する研修会への参加や他グループホームの視察研修を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談等で家族がグループホームを訪問した時に見学してもらっている。その後利用者と一緒に遊びに来てもらい、見学や面談をしながら、無理なく利用できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	もちつきや畑仕事などで利用者により方を教わったり、方言なども教えてもらったりして「共に支えあう」という理念の実践に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の立場に立ち、日々のかかわりの中でも、会話や表情から利用者の思いを把握するように努めている。また本人の希望や意向はユニット会議などで出し合い共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は担当する利用者の思いや日頃の様子をまとめ、それをユニット会議で皆で話し合っている。また家族の思いや意見を聞き、介護計画に反映できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し期間を3ヶ月とし、本人の状況、家族や職員の意見をまとめ見直しを行っている。期間前であっても、状況の変化に伴い対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が希望する病院や他科への通院に家族が付き添えない場合は職員が付き添っている。利用者の希望に応じて買い物に個別に対応したり、墓参り等の特別な外出には利用者の希望を家族に伝え、協力をお願いしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自分の希望するかかりつけ医を受診している利用者もいて、事業所は家族と連携し受診結果などを共有している。協力医は24時間対応であり、月1回往診による定期受診を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応の指針を作成し入居時に家族や利用者に伝え、入居後も状況の変化に応じ話し合っていくことを確認している。指針作成時には家族に重度化した場合、どんな対応を望むかなどのアンケートを実施している。	○	入居時に指針を伝えるだけでなく、入居後変化がない場合でも何かの折に重度化した場合の対応を確認し合う場を作り、家族や利用者の安心を図ることを検討されたい。また職員同士が支援の具体的内容を話し合い方針を共有することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を心がけ、排泄介助や居室への出入り時の声掛けなどにも気をつけている。個人情報にも留意し、面会簿は置かず毎日の日誌に職員が面会者名を記入している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースやしたい事を大事にし、散歩や買い物、入浴時間なども希望にそって対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は専任の調理師が作り、利用者はおやしのひげやさやえんどうの筋をとるなどを手伝ったり、主食と汁物を自分で盛り付けたりする。後片付けも職員と一緒に自分の食器は自分で洗い、皆が手際よく片付けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や習慣に合わせて、毎日、どの時間でも入浴できるよう支援している。拘縮のある介護度の重い利用者も毎日入浴することにより、ただれの防止や清潔の保持ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、毎日の掃除で掃除機をかける、洗濯物をたたむ、お茶を用意する、花を生けるなどの役割を持ってそれぞれの力を発揮している。ぬり絵やゲーム、散歩やドライブなどの楽しみ事を利用者の希望を取り入れながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩いたり体を動かすことを重視し、散歩を日課として外に出ることが日常生活に定着している。毎日の散歩以外にも買い物やドライブ、お花見などの遠出も行っている。	○	気分が乗らず行きたくない利用者には無理強いをせず、ホームに残り職員が付き添い対応している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ふらりと一人で外に出て行ってしまおう利用者がいて、その利用者が居るユニットの玄関は、家族と相談し日中も鍵をかけている。	○	鍵をかけることを常態化させず、職員の配置、利用者の外出の癖や傾向をつかむ、地域との連携などで日中鍵をかけずに過ごす時間を多くする工夫を期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で定期的に非難訓練を行っている。	○	今後、災害時に地域住民の協力が得られるような、体制作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を担当する調理師が栄養摂取量を考えた献立を作成し、利用者1人ひとりの食事や水分量は毎日記録し、職員が情報を共有している。	○	献立に加え、栄養摂取量もわかり易く数字やグラフで明示し、バランスのとれた食事を支援している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間にはあちこちにソファが置かれ、利用者が自分のお気に入りの場所を作っている。和室の居間には冬になるとコタツが置かれ、食堂には入居者と職員の話し声が適度に響き生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みのもや家族の差し入れなどがいっぱい の居室、箆笥や押入れに整理して納めすっきりした居室、ベッドをかたづけ布団にしている居室など、入居者1人ひとりが居心地よく過ごせる居室になっている。		